

レバ懶ニ、〇下

〔新古今和歌集冬〕内大臣に侍りける時家の歌合に、法性寺入道前關白太政大臣

みかりすと鳥だちの原をあさりつゝ、かたの、野邊にけふも暮しつ

攝津國
夢野

〔和漢三才圖會七十四〕鬪。鷄。野。名。夢。野。在湊川之近處

〔釋日本紀十二〕攝津國風土記曰、雄伴郡有夢野。父老相傳云昔者刀我野有牡鹿其嫡牝鹿居此野其

妾牝鹿居淡路國野島彼牝鹿屢往野島與妾相愛無比既而牡鹿來宿嫡所明且牡鹿語其嫡云今夜

夢吾背爾雪零利止爾於見支又日都須草生多利見支此夢何祥其嫡惡夫復向妾可往乃詐相之曰背上

生草者矢射背上之祥也又雪零者白鹽塗穴之祥汝渡淡路野島者必遇船人射死海中謹勿復往其

牡鹿不勝感戀復渡野島海中遇逢行船終爲射死故名此野曰夢野俗說云刀我野爾立留眞牡鹿母

夢相乃麻爾麻爾

遠里小野

〔和漢三才圖會七十四〕遠里小野 在住吉東淺香山遠里小野

〔類聚名物考地理十九〕遠里小野 とほざとをの をりをの 俗攝津

攝津國の名所なり住吉の東方に有り昔此所より燈油を始めて出せりとぞよりて今も住吉のみ

あかしの油は此所より奉るとぞ俗にはをりをのともいへり住吉郡の内なり又或記には遠里

小野をうりふのと訓りそれは瓜生野と思ひたがへしにや

〔細川兩家記〕同〇享五年壬辰閏五月十三日に阿波衆境より出張也〇中三好筑前守元長衆は住

吉の澤の口遠里小野に陣取給ふ

〔新勅撰和歌集春〕春歌

住吉の松の嵐もかすむなり遠里小野の春の明ほの

〔和漢三才圖會七十一〕豐國野 在安濃郡椋本與窪田間

伊勢國
豐國野

覺延法師